

第10号
同推くん 1998年1月25日
発行 海蔵地区同和教育推進協議会
TEL31-3284 (地区市民センター内事務局)

啓発テーマ

力を合わせて・・・

差別を「しない、させない、許さない」運動を広げよう

『第6回人権を考える集い』開催される

昨年11月8日、海蔵小学校体育館にて「高齢者の人権を考える」をテーマに『第6回人権を考える集い』が開催されました。

海蔵地区においても高齢化が進行している中、高齢者の人権について地域住民の関心は高く、当日は100名を超える参加者が駆けつけました。

「第6回人権を考える集いを終えて」

『第6回人権を考える集い』実行委員会

実行委員長 藤岡 清

今回で6回目を迎えました『人権を考える集い』には、たくさんの方に参加していただきありがとうございました。

今回は「高齢者の人権を考える」をテーマに昨年11月8日、日本福祉大学教授 野口定久先生をコーディネーターに、各分野でご活躍の7名の講師をお招きし、パネルディスカッションをしていただきました。

パネラーの先生には様々な介護サービスの紹介やその利用について教えていただきました。またヘルパーの森さんと、現在奥さんの介護をしておられる加藤さんに介護体験のお話をさせていただきました。

私はお話をうかがっていくうちに、森さんも加藤さんも介護を受けている人を「介護の対象」としてではなく「障害をもって生きていく人」としてとらえていらっしゃるように思いました。

まさにこのことが人権を考える上で大切なことではないでしょうか。

今回の人権を考える集いを開催するにあたり、地区社協をはじめご協力をいただきました各団体のみなさまに心からお礼申し上げます。

「かかわり」

海蔵小学校 森井 秀樹

海蔵小でお世話になることになった本年度、幸いにも、地区同推協の活動にかかわらせていただく機会に恵まれました。

高齢者の人権をテーマにおこなった「人権を考える集い」や各地区で行われた懇談会等、熱心な取り組みが展開されており、人権尊重の立場に立った住みよいまちづくりが着実に浸透しているように思います。

このような温かい地域の中で、本校でも「豊かな心で学び支え合う子どもの育成」を教育目標に掲げ、取り組みを進めています。特に、人間関係の希薄さが指摘され「いじめ」や「不登校」などの問題が大きく取り上げられている今日、学校でも人と人のかかわりを深め、人の思いや痛みに共感できる仲間をつくることの必要性を痛感します。

そのような「かかわり」の中で、お互いの違いを認めあい、支えあいながら共に生きようとする心が育まれ、豊かな人権感覚が培われていくのだと思います。そのためにも、これからも家族や地域との「かかわり」を大切にしながら、子どもとの「かかわり」を深めていけたら、と思います。



「同推協で四年が過ぎて」

私が海蔵地区同和教育推進協議会に接するようになって四年が過ぎようとしています。いつも言っておりますが、同和問題・人権問題は、ちょっと見は何でもない簡単なようですが本当に難しい問題だと私は思います。人を差別する、また差別されるという事のくり返しで幾年も過ぎて来ても先の見えてこない世界です。でも誰もが一生懸命、この問題に向かって取り組んでおります。

「人権の集い」、「地区懇談会」、「同和問題連続講座」といろいろ出席しては少しずつ、皆さま方と共にこの問題を勉強していきたいと思っております。

まず、自分が差別しない、そして人にもさせない。皆さまと共にがんばってやってみようと思っております。

海蔵地区同和教育推進協議会

清藤 勝義

ご意見・ご感想をお寄せください (海蔵地区市民センター事務局)